

つづき

津付ダムだより

横田小学校で

「川まつり」開催

7月31日(土)、陸前高田市の横田小学校で「川まつり」が開催されました。

通常の水位であれば、横田地区の気仙川を会場として、川遊び体験(いかだやカヌー、魚の観察、水遊びなど)が行われる予定でしたが、前日の降雨により気仙川の水かさが増していたため、体育館及びプールでの開催となりました。

当日は晴天のもと、横田小の児童さんや保護者の方、先生など約100人が集い、にぎわいを見せていました。

津付ダム建設事務所からは、「〇×クイズ」を実施し、楽しみながら知識を深めていただきました。

発行所

沿岸広域振興局土木部
大船渡土木センター
津付ダム建設事務所

お問い合わせ先

〒029-2311
気仙郡住田町世田米
字川向 102-1
TEL 0192-22-8182
FAX 0192-46-3715

津付ダム公式ホームページ
<http://www.pref.iwate.jp/~hp4580>



(「〇×クイズ」の様子)



五葉湖畔の集い開催

8月1日(日)、大船渡市の鷹生ダム周辺で「五葉湖畔の集い」が開催されました。好天に恵まれ多数の方々が来場しました。来場された方は、木工教室やポートによる湖面パトロール、ダム施設見学、津付ダムパネル展示等のイベントをそれぞれ楽しんでいました。



(津付ダムパネル展示の様子)

質問コーナー

(質問) 津付ダムは「流水型ダム」という形態のダムであると聞きました。放流口が常に開いているのに、どのようにして水が貯まるのですか？

(回答) 放流口の穴の大きさにより流せる量が決まっています。(津付ダムの最大放流量は70³m³/s ↓1秒間に70立方メートル) 放流口の穴はダムの上流から流れてくる水量(通常時の水量)が、そのまま下流へ流れていく大きさとなっています。津付ダムは利水機能(水道用水や工業用水、発電など)を持たないので、普段はダムに水を貯めません。

洪水時は、放流口の穴の大きさでは流しきることができない水量が押し寄せるので、この流しきれない水量がダムに貯まってしまうこととなります。ゲート操作での調節はありません。

ダム地点より下流に、一気に大量の水が流れないように調節(自然調節)し、下流河川沿いの洪水被害を軽減するものです。

気仙川水系河川整備手法比較表の説明

津付ダム日より平成21年12月号(第11号)に掲載した「気仙川水系河川整備手法比較表」の補足説明を行っています。この表は、平成21年度に行われた大規模事業評価専門委員会での審議に使用されたものです。

今回は事業の概要について、着目します。

(ダム+河川改修案→津付ダム建設と河川の改修を組み合わせる案)をA案、(河川改修単独案→河川の改修のみで対策する案)をB案として比較しています。

		(ダム+河川改修案) A案	(河川改修単独案) B案
事業概要	整備計画 1/30整備に 必要な工種①	ダム(重力式ダム(流水型)) 高さ48.6m 長さ165.0m、堤体積105,000m ³ 河川改修(掘削面積 40,000m ²) 完了予定年度 H37 ・延長 L=9.3km ・掘削工 V=17,000m ³ ・築堤工 V=104,000m ³ ・護岸工 A=6,000m ² ・橋梁架替 N=1橋	河川改修(掘削面積 237,000m ²) ・延長 L=10.8km ・掘削工 V=313,000m ³ ・築堤工 V=141,000m ³ ・護岸工 A=43,000m ² ・橋梁架替 N=2橋 完了予定年度 H69
	1/70整備に 必要な追加工種②	河川改修(掘削面積 406,000m ²) ・延長 L=11.6km ・掘削工 V=755,000m ³ ・築堤工 V=80,000m ³ ・護岸工 A=61,000m ² ・橋梁架替 N=4橋	河川改修(掘削面積 342,000m ²) ・延長 L=13.6km ・掘削工 V=999,000m ³ ・築堤工 V=73,000m ³ ・護岸工 A=76,000m ² ・橋梁架替 N=6橋
	基本方針 ①+②	ダム(重力式ダム(流水型)) 高さ48.6m 長さ165.0m、堤体積105,000m ³ 河川改修(掘削面積 446,000m ²) 完了予定年度 H116 ・延長 L=11.6km ・掘削工 V=772,000m ³ ・築堤工 V=184,000m ³ ・護岸工 A=67,000m ² ・橋梁架替 N=5橋	河川改修(掘削面積 579,000m ²) ・延長 L=13.6km ・掘削工 V=1,312,000m ³ ・築堤工 V=214,000m ³ ・護岸工 A=119,000m ² ・橋梁架替 N=8橋 完了予定年度 H161

段階的整備の計画として、今後20年程度の期間での整備を目標とした「気仙川河川整備計画」は、治水安全度を概ね30年確率(1/30)としています。(最終目標は1/70)

まずはこの治水安全度1/30の整備に必要な工種を記述している、表の1段目について説明します。

A案では、ダム下流全川にわたり水位低下の効果がある津付ダムを整備します。津付ダムだけで治水安全度1/30を確保できない部分について、河川改修(掘削面積40,000m²、延長9.3km、掘削土量17,000m³、築堤土量104,000m³、護岸工6,000m²、橋梁架替1橋)を実施すると考えたもので、平成37年度完了予定と試算しました。

B案では、津付ダムを整備せずに河川改修のみ(掘削面積237,000m²、延長10.8km、掘削土量313,000m³、築堤土量141,000m³、護岸工43,000m²、橋梁架替2橋)で対策するもので、平成69年度完了予定としています。

次号も引き続き「事業概要」の項目について、説明を行っていきたいと思います。

河川等の急激な増水にご注意願います。

時間雨量が数十ミリに達するような、局地的かつ短時間に強い雨を降らせる「局地的大雨」が、近年多くなっています。河川や用水路等の急激な増水に注意しましょう。